

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01307

研究課題名（和文）「原本史料情報解析」の方法による中世西国武家文書の研究と展開

研究課題名（英文）Research and development of medieval Saigoku samurai documents using the method of "original historical material information analysis"

研究代表者

本郷 恵子 (Hongo, Keiko)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：00195637

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、文字テキストの読解から史実を確定するだけでなく、数百年にわたって伝来してきた古文書等の原本史料の軌跡を、さまざまな角度から検証する「原本史料情報解析」の方法を適用して、史料の持つ豊かな情報をあきらかにした。中世の西国地方を拠点とした武家に関わる史料を主な対象として調査・撮影を実施し、史料の現物および史料情報の保全・研究資源化を実現した。そのなかには多くの新発見・再発見の史料が含まれる。並行して、西国武家の権力構造や相互の連携状況等の分析を進めた。また「入来院家文書」をはじめとする貴重史料の修理を行い、解体時でなければできない調査によって、オリジナルのみが持つ形態的情報を取得した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国には豊かな歴史史料が伝来しており、それらについての調査や記録の歴史も長い。しかしながら、地域の人口減や所蔵者の高齢化、気候の激甚化に由来する災害の多発によって、史料の散逸や損傷が危惧される状況は加速している。既知の史料でも、マイクロフィルムによるモノクロ画像しか残されていないものは多く、デジタル撮影で史料の精密な記録を残すことは非常に重要である。本研究は、高精細デジタル撮影・調査の実践を通じて、史料の保全・成果発信・社会還元という総合的な文脈で史料研究を実施することで、歴史史料の価値をあらためて確定し、社会に位置付けた。

研究成果の概要（英文）：In this research, we apply the method of "original historical material information analysis," which not only determines historical facts from the written texts, but also verifies the trajectory of original historical materials from various angles. This revealed the rich information contained in historical materials.

We mainly investigated and photographed historical documents related to samurai families based in the western region during the medieval period, and succeeded in preserving both the actual historical materials and information on them. In the process, we discovered or rediscovered many new materials. At the same time, we analyzed the power structure and mutual cooperation among samurai families in the western region. We also repaired valuable historical materials such as the "The Documents of Iriki".

研究分野：日本中世史

キーワード：島津家文書 入来院家文書 原本史料研究 名勝図 古文書料紙研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者および研究分担者の一部が所属する東京大学史料編纂所では、2015～19年の5年間にわたって「原本史料情報解析による複合的史料研究の創成事業」(以下「創成事業」と記す)というプロジェクトを展開してきた。史料編纂所が所蔵する国宝『島津家文書』のうち、とくに重要な「御文書」と呼ばれる史料群の解体修理を実施し、その過程で卷子を完全に解体して、裏打紙等を完全に外した状態でのみ取得できる原本情報の収集・分析を行った。顕微鏡撮影や計測によって文書一紙ごとに素材・厚み・漉き方等のデータを取り、シミや劣化等の損傷原因を検討するなど、紙面に記されたテキスト以外の「モノ」としての史料が持つ形態的情報を幅広く収集した。それらの情報を用いて、文書の作成方法や表装の技法、それが施された時期等、史料の作成状況や史料群の保存・管理に関わる検討を行い、料紙一紙から卷子一軸、さらには史料群全体に関わる、多元的な単位での考察を展開した。

上記「創成事業」は、『島津家文書』の修理を中心とする事業的側面が強く、十分な研究的展開が成されたとはいえない。本研究は「創成事業」によって培われた「原本史料情報解析」の方法を用いて、原本情報のさらなる取得と精査を継続するとともに、西国武家文書を対象をひろげて、高精細デジタル撮影・調査の実践を通じて、伝来状況や歴史的価値の確定・保全・社会還元という一連の活動を展開していくことを目指した。

わが国には豊かな歴史史料が伝来しており、それらについての調査や記録の歴史も長い。しかしながら、地域の人口減や所蔵者の高齢化、気候の激甚化に由来する災害の多発によって、史料の損傷や散逸が危惧される状況は加速している。既知の史料でも、マイクロフィルムによるモノクロ画像しか残されていないものは多く、デジタル撮影で史料の精密な記録を残すことは非常に重要である。本研究は、高精細デジタル撮影・調査の実践を通じて、史料の保全・成果発信・社会還元という総合的な文脈で史料研究を実施することで、歴史史料の価値をあらためて確定し、社会に位置付けようとするものである。

### 2. 研究の目的

本研究は中世の西国武家文書について、文字テキストの読解から史実を確定するだけでなく、数百年にわたって伝来してきた原本史料の軌跡をさまざまな角度から検証する「原本史料情報解析」の方法を適用し、史料の持つ豊かな情報を最大限あきらかにしようとするものである。地域の博物館・歴史館、自治体の文化財担当者等と連携して、西国地方を拠点とした武家に関わる史料を調査・デジタル撮影を実施する。この活動は、史料の所在確認・現状確認を行うと同時に、原本の情報を詳細に反映する画像を、原本研究の素材として蓄積し、さらには有事の際のバックアップを確保する意義を持つ。

あわせて、史料編纂所所蔵の「入来院家文書」をはじめとする貴重史料の修理を行い、解体時でなければできない調査を行って、オリジナルのみが持つ形態的情報を取得する。このような原本史料の精査を通じて、これまで経験や感覚にもとづいて語られていた原本史料研究について、客観的な考察の素材となるサンプルを蓄積していく。

多様な研究者や地域の文化財関係者とともに、以上の活動を継続することを通じて、歴史史料研究や成果の発信、歴史知識の普及へとつなげる。文化資産の保全や次代への継承にも貢献する。

### 3. 研究の方法

西国武家文書を所蔵する各地の所蔵機関・所蔵者のもとに出張して、調査・デジタル撮影を実施する。画像データは、東京大学史料編纂所の史料画像デジタル化進捗管理システムの手続きにしたがって処理し、歴史情報処理システム(SHIPS)上のデータベースHi-CAT Plusに組織的に蓄積され、研究資源化される。また、重要な史料群については、史料画像・釈文・目録等を載せる調査図録を作成する。並行して、損傷・劣化等が深刻な貴重史料について、修理を施し、原本史料情報を蓄積する。

### 4. 研究成果

#### (1) 史料調査

研究期間の各年度における調査史料の一覧をあげる。なお、2020～21年度はコロナ禍のため、地方における調査が困難であったが、博物館・資料館等の公的所蔵機関を中心に調整し、十分な感染防止策のもとに実施した。2022年度からは、次第に通常の体制に復し、個人所蔵の史料の調査も再開した。

**2020年度：** 山口市歴史民俗資料館：手鑑「萬代帖」等、山口県文書館：小早川証文・村上文書、下関市立歴史博物館：周防国富田駅家田文書案・武久文書・天和家状・長府寺社古文書類・長府毛利家所蔵品目録・〔寄託〕総屋所蔵文書等、愛媛県歴史文化博物館：武井文書等、愛媛県所在寺院等文書：天徳寺文書・照源寺文書・龍澤寺文書・中川氏所蔵文書、龍安寺所蔵文書(京都市)

**2021 年度：** 山口県文書館：熊谷文書・山根文書・長松文書・兄部文書・国造千家所持之内古書類写・御書御判物控、 鹿児島県歴史・美術センター黎明館：永吉島津文書・岡元文書、 尚古集成館：比志島文書・山田文書、 鳥取県立博物館：加須屋文書・名和神社文書・宮本文書、 多良木宗像文書（熊本県多良木町）、 深水文書（熊本県水俣市）、 石関文書・島津義久朱印状（鹿児島県霧島市）、 小倉文書（京都府京丹後市）

**2022 年度：** 広島県三原市：市所蔵村上文書・個人所蔵文書・仏通寺文書、 広島県呉市：個人所蔵文書、 福岡県久留米市：大善寺玉垂宮文書・隈文書・梅津文書・御船文書・小川区有文書・高良大社文書、 福岡県太宰府市：九州国立博物館所蔵文書・小早川文書、 長崎歴史文化博物館：青方文書、 長崎県平戸市：松浦文書・相知文書、 熊本県益城町所蔵文書、 大分県竹田市歴史文化館所蔵文書、 大分県臼杵市：安養寺文書、 大分県佐伯市：個人所蔵文書、 清水寺文書（京都府京都市）、 京都府大山崎町：個人所蔵文書、 鹿児島県鹿児島市：黎明館所蔵中世史料・谷山文書・霧島神宮文書・三角文書・柏原文書、 山口県文書館：山内首藤文書・冷泉文書・内藤文書

**2023 年度：** 京都市歴史資料館：明通寺文書（林屋辰三郎氏の収集史料から成る燈心文庫に含まれるもので、若狭の明通寺より流出した文書である。『福井県史』にも未収で、これまで注目されることがないが、中世の同寺についての知見を補強する内容である）、 福岡市立博物館：黒田文書・結城文書・青柳種信関係資料、 九州国立博物館所蔵文書、 称名寺文書（福岡市、新出史料。大友氏や大内氏家臣から博多の時宗寺院である称名寺に出された文書である。散逸したとされていた原本が、近年発見された）、 島根大学：小笠原文書、 島根県立図書館：庵原文書・富文書、 石見銀山センター：金皇寺文書（新出史料。毛利氏や吉川氏から石見国の金皇寺に出された文書）・宗岡文書、 堺市博物館：法道寺文書・堺市博物館所蔵文書・今井文書・赤木氏所蔵文書・中村結鎮御頭次第、 大阪歴史博物館：三刀屋文書（新出史料。出雲国人である三刀屋氏の文書。これまで知られていた水戸彰考館蔵の写本とは別系統の三刀屋家に残されたもの）・久米田寺文書、 佐賀県立図書館：堤文書・深江文書・隈文書・龍造寺文書・犬塚文書・有浦文書・山口家史料、 八雲神社文書（鎌倉市）、 大阪城天守閣：大阪城天守閣所蔵文書・吉村文書・土屋氏旧蔵文書・西野文書（新出史料。近江浅井氏から北近江の国人西野氏に出された文書）、 馬の博物館所蔵文書、 大浦文書・洲河文書（対馬市）、 徳島城博物館：木戸氏所蔵文書、 徳島県立図書館：呉服文書、 本門寺文書・常德寺文書（三豊市）、 山口市歴史民俗資料館：長井文書・吉敷毛利文書（新出史料。秀吉発給文書二通・豊臣家奉行発給文書二通から成る。主に小早川氏に充てられている）・西郷文書、 山口県文書館：有福文書（正本と写しとが混在する文書群。相続の際に分割されたと考えられる。秀吉朱印状に至っては、朱印が半分だけ残されている）・右田毛利文書、 ⑳平群町教育委員会：尾張椿井文書、 ㉑清水文書（奈良市）、 ㉒勝尾寺文書（箕面市）

## （2）史料修理

史料編纂所所蔵「**入来院家文書**」(S0671.18)の修理

経年劣化等が深刻と判断される1～5・10・12・17・18の各巻について修理を実施した。いずれも、解体・修理・撮影を行い、完了後は巻子の形態に戻さず、まくりの状態中性紙の畳紙に収めて保管している。修理の過程では原本史料情報についての調査・分析を実施し、紙の厚み・密度・繊維の質・簀の目・糸目等の情報を記録した。「入来院家文書」は、1929年、アメリカのイェール大学教授であった朝河貫一が『The Documents of Iriki』を刊行したことにより、日本封建制研究の根本史料として国際的に著名になった史料群である。同書は「入来院文書」を英訳しただけでなく、詳細な注釈のかたちで日欧封建制を比較した意欲的な試みとして史学史上きわめて重要な成果である。史料編纂所では、インターネットやデジタル技術の初期の段階で、同文書をデジタル撮影し、日本語・英語のテキストや注釈を付してホームページから公開した。ただし近年の技術の発展により、さまざまな点で更新が必要と思われる状況であり、本研究での修理・調査・撮影を踏まえて再構築し、新しい形で公開する道筋が見えてきたといえる。

「**湯原家文書**」9巻の修理

湯原氏は戦国期出雲の住人で、毛利氏に臣従した後、萩藩士となって幕末を迎えた一族である。関係文書が『萩藩閥閥録』に収載されているが、これまで不明だった同家所伝の史料原本を発見した。永禄～天正期というわずかに三〇年余りの短い期間に、二通を超える文書が集中的のこっており、毛利輝元・吉川元春・小早川隆景という重要な人物が発した書状類が大半を占めるものである。戦国期における大名家と被官（小武士）との関係を明らかにするには最適の素材といえる。状態が悪かったため、借用して調査・修理を行うとともに、内容の検討を進めた。

## （3）「薩藩勝景百図」の検討

史料編纂所所蔵「島津家文書」のなかの「薩藩勝景百図」（薩摩藩内の名勝・旧跡を描く五巻の絵画史料）の解説テキストである「薩藩勝景百図考」の翻刻を行った。この成果を踏まえて、近衛信尹（1565～1614）の薩摩配流と名勝成立の関係を検討した。

#### (4) 史料画像の連携公開

デジタル画像をはじめとする原本史料情報には、所蔵者による利用制限が付されていることが多いが、近年では公的な所蔵機関を中心に、情報公開が進められる傾向にある。本研究においても、所蔵者との調整を経て、史料画像等の連携公開の実現に貢献した。公開環境の整備等については、日本学術振興会（JSPS）からの受託事業である「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」（2019～22）・「人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業」（2023～27）が担当している。

##### 都城島津邸所蔵島津家関係史料の Web 公開

2021 年 7 月に、宮崎県都城市と史料編纂所は覚書を締結し、史料編纂所のデータベースから同市の都城島津邸が所蔵する島津家関係史料の画像の Web 公開を開始した。歴史史料研究を通じての、大学附置研究所と自治体との連携として特筆すべきもので、本科研の調査・研究の実績が大きく寄与している。

##### 立花家史料館・柳川古文書館との連携

福岡県柳川市の立花家史料館が所蔵し、柳川古文書館に寄託されている「大友家文書」「立花家文書」は、中世西国武家文書の中でも質・量ともによく似た史料群である。両史料群の調査・撮影を実施するとともに、両館と史料編纂所との連携による史料情報公開について協議を進めている。

#### (5) 報告書の作成

##### 村井祐樹編『中川（赤穴）文書』（東京大学史料編纂所研究成果報告 2021-3）

赤穴氏は、鎌倉～南北朝期に石見・出雲に進出した佐波氏の一族で、出雲国赤穴荘を領したところから赤穴氏を称した。戦国期には尼子氏に仕え、その後毛利家家臣となって、慶長 4（1599）年に中川氏に改姓し、幕末にいたる。史料編纂所が中川四郎氏から購入した文書 150 点と、それ以前に流出して個人蔵となった分や、原本が伝わらず『萩藩閥閥録』のみに採録されるものなども併せて画像と翻釈文を掲載した。巻末には史料編纂所所蔵分の紙質情報一覧表を付している。

##### 末柄豊・村井祐樹編『音羽山清水寺中世文書』（東京大学史料編纂所研究成果報告書 2023-1）

京都市の音羽山清水寺に伝来した中世文書の調査図録。本史料群は、もとは成就院等の院家に所蔵されていたと考えられるが、現在は同寺宝物館に一括収蔵されている。史料編纂所においても 1930 年に影写本が作成されているが（成就院文書・慈心院文書）、それらに加えて旧清水寺本坊所蔵文書および成就院であらたに発見された史料を収めた。

小瀬玄士・畑山周平・村井祐樹編『島津家文書「御文書」外中世文書集』（東京大学史料編纂所研究成果報告書 2023-6、PDF 公開）

史料編纂所所蔵の国宝『島津家文書』のうち「御文書」に収められていない中世文書の調査図録。

『島津家文書』においては、慶長年間以前の文書のほとんどは、「御文書」と名付けられた 238 巻のうちに収められているが、別に中世文書をまとめた 5 巻の卷子がある。おそらくは「御文書」が成巻された 17 世紀半ば以降に島津家に入ったものと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ayako Shibutani, Satoru Nakamura, Kanako Hirasawa, Honami Inukai, Toshiyuki Yamada, Airu Adachi, Ikki Ohmukai, Taizo Yamada	4. 巻 2023
2. 論文標題 Developing a New Research Data Infrastructure for Japanese Historical Materials	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Digital Humanities (DH) 2023	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.8108054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 石川隆二, 高島晶彦, 渋谷綾子	4. 巻 95
2. 論文標題 MIG-seqを利用した日本在来カジノキの遺伝的多様性の解析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本遺伝学会大会プログラム・予稿集 95th (CD-ROM)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渋谷綾子, 天野真志, 高島晶彦, 貫井裕恵, 山家浩樹	4. 巻 34
2. 論文標題 研究座談会 「料紙研究を語る」記録から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 127 - 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 水野嶺・畑山周平	4. 巻 22
2. 論文標題 史料紹介 愛媛県龍澤寺所蔵『薩州本山福昌寺年来記抜書』上	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 尚古集成館紀要	6. 最初と最後の頁 7 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田友広	4. 巻 909
2. 論文標題 足利直冬の京都進攻とある文書の行方	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 78 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村朋弘, 石神裕之, 川合健太	4. 巻 26
2. 論文標題 遠隔環境下における史料調査・整理法の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都芸術大学紀要 Genesis	6. 最初と最後の頁 126-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川博史	4. 巻 2
2. 論文標題 石見銀山と大内氏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 石見銀山研究	6. 最初と最後の頁 3 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井祐樹	4. 巻 30
2. 論文標題 「管領」就任以降の六角定頼	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 滋賀県立安土城考古博物館紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 83 - 1
2. 論文標題 長崎からみた天草 分断と連帯	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 74 - 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 7
2. 論文標題 本山家文書と本石灰町	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 長崎学	6. 最初と最後の頁 7 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子, 高島昭彦, 天野真志, 野村朋弘, 山田太造, 畑山周平, 小瀬玄士, 尾上陽介	4. 巻 32
2. 論文標題 古文書料紙の科学研究: 陽明文庫所蔵史料および都城島津家史料を例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷恵子	4. 巻 47 - 2
2. 論文標題 中世の災厄と無常観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 83 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石大, 高島晶彦, 渋谷綾子	4. 巻 95
2. 論文標題 東京大学史料編纂所蔵明治天皇宸筆勅書の料紙調査報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 18 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子	4. 巻 4628
2. 論文標題 Scientific study advancements: Analysing Japanese historical materials using archaeobotany and digital humanities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Academia Letters	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20935/al4628	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 41 ( 1 )
2. 論文標題 国際貿易都市長崎の成立と特質	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地図情報	6. 最初と最後の頁 13 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 708
2. 論文標題 研究展望 荒野泰典『近世日本と東アジア』(特集 戦後歴史学の著作を読む(6))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 55 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 野村朋弘	4. 巻 122 11
2. 論文標題 後醍醐天皇を支えた廷臣 -岡崎範国について-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 1 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田友広	4. 巻 46
2. 論文標題 北条義時の「大倉亭」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 51 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子	4. 巻 72 (1)
2. 論文標題 考古学・植物学的手法を応用した歴史資料の総合的研究: 「国際古文書料紙学」創出への展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子	4. 巻 90
2. 論文標題 小特集「古文書学の新展開」まえがき	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 1 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子,野村朋弘,高島晶彦,天野真志,山田太造	4. 巻 31
2. 論文標題 考古学・植物学を活用した松尾大社社蔵史料の料紙の構成物分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村直樹	4. 巻 25
2. 論文標題 長崎をささえる大分との回路ー近世の人・物・情報の交流ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大分県立先哲史料館史料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村朋弘	4. 巻 24
2. 論文標題 前津小林文庫所蔵「御即位記 貞和度」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都芸術大学紀要 : genesis	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井祐樹	4. 巻 31
2. 論文標題 三好にまつわる諸々事ー『戦国遺文 三好氏編』よりー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所紀要	6. 最初と最後の頁 1 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Ayako Shibutani, Satoru Nakamura, Kanako Hirasawa, Honami Inukai, Toshiyuki Yamada, Airu Adachi, Ikki Ohmukai, Taizo Yamada
2. 発表標題 Developing a New Research Data Infrastructure for Japanese Historical Materials
3. 学会等名 Digital Humanities (DH) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渋谷綾子
2. 発表標題 今日うちでなに食べる？デンプンから探る遺跡と古文書
3. 学会等名 地域の文化・歴史再発見講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石田正紀, 高島晶彦, 山口悟史, 渋谷綾子, 平澤加奈子, 與那嶺亮, 武智英明
2. 発表標題 赤外分光法と統計解析・機械学習による和紙の識別に関する諸検討
3. 学会等名 日本分析化学会第72年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayako Shibutani, Satoru Nakamura, Takane Mizukami, Kanako Hirasawa
2. 発表標題 Science of Japanese Historical Materials: Towards Open Science and Internationalisation (日本史史料の科学研究: オープンサイエンスと国際化の推進に向けて)
3. 学会等名 The 33rd EAJRS Conference (第33回日本資料専門家欧州協会年次大会) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鍾國芳, 渋谷綾子
2. 発表標題 カジノキ・樹皮布・紙～植物のDNAに記録された東アジア人類の移動と文化史
3. 学会等名 Taiwan Plus 2023 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideaki Takechia, Masaki Ishida, Ryo Yonamine, Takeyoshi Goto, Akihiko Takashima, Satoshi Yamaguchi, Ayako Shibutani, Kanako Hirasawa, Katsuya Hirota, Yosuke Onoe
2. 発表標題 ATR-IR Spectra Classification of 'Washi' Japanese Papers using Machine Learning
3. 学会等名 16th Asian Conference on Analytical Sciences 2023 (ASIANALYSIS XVI 2023) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渋谷綾子, 高島晶彦, 山口悟史, 丹羽尉博, 石田正紀, 平澤加奈子, 広田克也, 尾上陽介
2. 発表標題 物理化学分析で拓く紙文化財の科学研究
3. 学会等名 日本文化財科学会第40回記念大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武智英明, 石田正紀, 後藤剛喜, 與那嶺亮, 高島晶彦, 山口悟史, 渋谷綾子, 平澤加奈子, 広田克也, 尾上陽介
2. 発表標題 赤外分光法と機械学習による和紙の識別の検討
3. 学会等名 第39回近赤外フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渋谷綾子
2. 発表標題 考古生化学と史料学をむすぶ
3. 学会等名 近江貝塚研究会第363回例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 渋谷綾子
2. 発表標題 研究の「見える化」とは：京都文化博物館令和6年度特別展「松尾大社展 みやこの西の守護神（まもりがみ）」へのいざない
3. 学会等名 近江貝塚研究会第365回例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ayako Shibutani, Satoru Nakamura, Taizo Yamada, Koki Yanbe
2. 発表標題 Developing a Comprehensive Application for Digital Transformation of Historical Materials
3. 学会等名 Digital Humanities (DH) 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渋谷綾子
2. 発表標題 古文書×物理化学：料紙分析の新たな展開にむけて
3. 学会等名 近江貝塚研究会第351会例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渋谷綾子
2. 発表標題 料紙分析で何がわかる？マクロ・ミクロの視点から
3. 学会等名 公開研究会「茂木文書」と科学の出会い
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 The Lord-Retainer Relationship of Warriors in Early Medieval Japan
3. 学会等名 国際シンポジウム「Strong Asymmetries in Social Relations Compared:The Mamluk Sultanate, Medieval Japan and Beyond」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 法制史学と歴史学の間 日本の中世前期を素材に
3. 学会等名 法制史学会第72回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野村朋弘
2. 発表標題 歴史史料の目録DBについて
3. 学会等名 洛北史学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ayako Shibutani, Makoto Goto
2. 発表標題 How Do Research Data Develop? International Standardisation of Scientific Data in Historical Studies
3. 学会等名 Digital Humanities 2020 (DH2020) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野村朋弘
2. 発表標題 中世後期の松尾社祠官について
3. 学会等名 神道史学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 渋谷綾子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告書2023&#8331;3	5. 総ページ数 190
3. 書名 静嘉堂所蔵古写経群の調査と研究	

1. 著者名 野村朋弘, 栗本徳子, 金子典正, 武井美砂, 石神裕之, 森田都紀, 井上治	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎	5. 総ページ数 224
3. 書名 論文の読み方・書き方	

1. 著者名 石神裕之、加藤詩乃、野村朋弘	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎	5. 総ページ数 190
3. 書名 歴史遺産学を学ぶ	

1. 著者名 木村直樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 223
3. 書名 牧原・村編 『列島の平和と統合：近世前期（1）（日本近世史を見通す 1）』	

1. 著者名 小瀬玄士・畑山周平・村井祐樹	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告2023-6	5. 総ページ数 188
3. 書名 島津家文書『御文書』外中世文書集	

1. 著者名 末柄豊・村井祐樹	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告2023-1	5. 総ページ数 188
3. 書名 音羽山清水寺中世文書	



1. 著者名 村井祐樹	4. 発行年 2024年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 580
3. 書名 中世史料との邂逅 室町・戦国・織豊期の文書と記録一	

1. 著者名 本郷恵子, 渋谷綾子, 高島晶彦, 天野真志, 貫井裕恵, 山家浩樹, 大川昭典, 富田正弘, 湯山賢一, 石川隆二, 野村朋弘, 尾上陽介, 小倉慈司, 中村 覚, 山田太造, 後藤 真	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 237
3. 書名 古文書の科学 - 料紙を複眼的に分析する -	

1. 著者名 大國晴雄・仲野義文・岡美穂子・佐々木愛・長谷川博史・本多博之・高木久史 / 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大田市教育委員会	5. 総ページ数 200
3. 書名 石見銀山ことはじめ 銀	

1. 著者名 藤田励夫・佐藤健治・岡村一幸・小瀬玄士編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告	5. 総ページ数 188
3. 書名 龍興山大慈寺所蔵史料	

1. 著者名 佐藤信編 木村直樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 世界遺産の日本史	

1. 著者名 西田 友広	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 222
3. 書名 16テーマで知る 鎌倉武士の生活	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 784
3. 書名 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 吾妻鏡	

1. 著者名 渋谷綾子, 横田あゆみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告書2021-9	5. 総ページ数 36
3. 書名 古文書を科学するー料紙分析 はじめの一步(史料調査ハンドブック)	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版 田中大喜編『中世武家領主の世界』	5. 総ページ数 352
3. 書名 材木の生産・流通と武家領主	

1. 著者名 橋本素子,角田朋彦,野村朋弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 243
3. 書名 史料纂集古文書編 宇治堀家文書	

1. 著者名 村井祐樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学史料編纂所研究成果報告書2021-3	5. 総ページ数 184
3. 書名 中川文書(赤穴文書)	

1. 著者名 木村直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 九州大学出版会 増崎英明編『今と昔の長崎に遊ぶ』	5. 総ページ数 313
3. 書名 第3章 近世貿易都市長崎の特質を考える 尾曲り猫はどこからきたのか	

1. 著者名 木村直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 長崎歴史文化博物館 『長崎開港450周年記念展ふたつの開港』	5. 総ページ数 192
3. 書名 伝統都市長崎へー寛文;延宝期の変容	

1. 著者名 本郷恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 277
3. 書名 室町將軍の権力 鎌倉幕府にはできなかったこと -	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松江市歴史まちづくり部史料調査課	5. 総ページ数 96
3. 書名 莊園のしくみと暮らし 松江の中世を探る	

1. 著者名 野村朋弘,比企貴之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 史料纂集 氏経卿神事記 第2巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野村 朋弘  (Nomura Tomohiro)  (00568892)	京都芸術大学・芸術学部・教授    (34319)	
研究分担者	長谷川 博史  (Hasegawa Hiroshi)  (20263642)	島根大学・学術研究院教育学系・教授    (15201)	
研究分担者	村井 祐樹  (Murai Yuki)  (20323660)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	
研究分担者	小瀬 玄士  (Kose Genshi)  (30634026)	東京大学・史料編纂所・助教    (12601)	
研究分担者	畑山 周平  (Hatayama Shuhei)  (30710503)	東京大学・史料編纂所・助教    (12601)	
研究分担者	木村 直樹  (Kimura Naoki)  (40323662)	長崎大学・多文化社会学部・教授    (17301)	
研究分担者	渋谷 綾子  (Shbutani Ayako)  (80593657)	東京大学・史料編纂所・特任助教    (12601)	
研究分担者	西田 友広  (Nishita Tomohiro)  (90376640)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------